

梅鶯仏教壮年

第31号
2006年
2月15日

シルクロードの旅を終えて（最終回）

監事 森勝昭

6月28日（八日目）

今朝も5時起床、敦煌に向けて国内便を利用。眼下はまた砂漠、砂漠。その砂漠のど真ん中に空港があり、死ぬまでに一度は行きたいと願っていたあの敦煌に着く。世界遺産でもある、砂漠の大画廊、莫高窟（ばつこうくつ）。ここまでは4カ所の千仏洞を見学し、その全てが壊されていた以上、この莫高窟は千年も当時のままに保存されている。492の石窟、二千体の仏像、壁画は全て横に並べると30キロ以上にもなるというわけだ。その内11の石窟があり、1つの石窟がツァーのコースであり、せつかくからと、5千円の



莫高窟

からと、5千円の

拝観料を払って3窟見学した。それはすばらしく見ごたえがあり、来て良かったと心をつらわられた。本日（28日）も昼寝の時間あり、夕方からまた行動。鳴沙山（めいさざん）、月牙泉（げつかせん）。今までのいやとい（げつかせん）。今までのいやというほど砂漠は見えてきたが、それはすばらしい曲線の巨大な砂山だった。夕日を見ながら、らくだに乗って一月の砂漠の気分であつた。今日一日は感動の連続で、多くのすばらしい思い出を頂いた。

6月29日（九日目）

6時30分起床、飛行機で西安へ。西安の名刹、鳩摩羅什ゆかりの草堂寺、善導大師ゆかりの香積寺を参拝した。夕食はさよならパーティーで、名物の餃子専門店へ。25種類の餃子が出たが、小生は下痢三日目で数個しか食べられず、ビールもコップ一杯。残念無念！！食事後、宮廷舞踏のショーを見学して全日空ホテルへ。午後11時過ぎ着。



ろばタクシー

6月30日（最終日）

最終日は6時30分起床、西安から上海経由で帰国の途へ。安から上海まで全行程予定通り、感動のシルクロードの旅を終えた。瓜生津先生を初め、すばらしい旅行仲間にも恵まれ、広大なシルクロードの大地、素朴な地方の人々との交流、反日感情などには微塵も感じることがなく、自然と壮大な歴史、広く穏やかでゆつくり時の流れていく感動の旅であつた。この大地のように小生も心を広く持ち、これからも念仏者としての歩みが続けたいと思っている。（了）

ガンジス河の真砂（まきご）より
あまたおねするほとけたち
夜ひるつねに守らすと
聞くになごめるわがこころ

定期総会開催

期日3月18日（土）

午後6時より

*役員会

3月11日（日）

午後7時より

題材法話

○正信偈を味わう④

「普放無量無辺光」から
「一切群生蒙光照」までの
6句には、阿弥陀様の十二
の光の働きがあらわされて
います。

最初の4つの光、「無量
光」「無辺光」「無碍光」
「無対光」は、阿弥陀様と
はどんな仏さまなのかとい
う、いわゆる仏さまの様が
示されていていました。

つづく4つの光、「光炎
王」「清浄光」「歡喜光」
「智慧光」は、仏さまの働
きの内容が示されていてまし
た。

そして今回味わう最後の
4つは、その阿弥陀様を讃
嘆する、つまりほめ讃える
光の名前なのです。

○「不断光」は途切れるこ
とのないはたらき

まず最初は「不
断光」です。
「不断光」の不



断とは途切れることなく
いう意味で、阿弥陀様が私
たちの救済する働きは、一
瞬の休みもなく、常に働き
づめにはたらいていて下さ
ることを讃えています。下
る幼子が母親の手の中で安
らかに眠っています。安
の時々目を覚ましては母親
の顔を見つめ、また安心し
て眠りにつきます。母親の
在を確認しているわけでは
ありません。母親の方が間
いなくいつでも自分のこと
を見ていてくれることを知
っているのです。安心の中
に眠っているのは、ほとん
ど私たちが、阿弥陀様のこ
とを忘れてしまっている片
時も私たちがのこを忘れ
ずに、摂取の光を照らし続
てくださっているのです。こ
れが「不断光」ということ
です。

○「難思光」は不思議

不思議のはたらき
です。つぎに「難思光」



難思とは私たちの考えも
およばないという意味で、
一般に使う不思議とほとん
ど同じ意味ですが、味わい
は大きく違います。味わい
は山科本願寺を建立すると
きの話です。棟上げ式を迎
えられた日、それが激しく
降り、晴れ間さえ出始めま
した。ある人が「さすがに
山。不思議なことあるも
の、です」と仰られたので
が、それに対して蓮如上人
は、「不思議とは、凡夫が
弥陀に救われることだけ
です。」とお応えになりました。
つまり、私たちが一般的
に不思議と思うことは、ど
んなことでも突き詰めれば
全て原因があり、縁起の世
界から全て必然的なこと
なのです。したがって、激
しい雨が降ったことも必然
で、本當に不思議でもな
ないのです。けれど、地獄
へ堕ちてもなんら不思議
でない私たち凡夫が、お
浄土へ



生まれさせていただく。こ
のことがまさに不思議
なことであるということです。
阿弥陀様のご本願による
救いこそが、私たちの世界
の理屈を超えた不思議の働
きであるということです。
これを「難思光」と讃え
ます。
(以下次号)

1月例会住職法話より

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○夕顔

お空の星が
夕顔に、
さびしき
ききました。

お乳いろの
夕顔は、
さびし
いひました。

お空の星は、
それつきり、
すましてキラ
ひかります。

さびしくな
夕顔は、
だんだん下
を

金子みすゞ

